

# WHAT

## 中国・北京外国語大学

文教育学部 言語文化学科  
中国語圏言語文化コース 2年  
鈴木涼子

到着した北京首都国際空港から北京外国語大学までは車で約1時間。空港がある北京の東の端から、西の学校地区へ。九月初め、こうして私のハプニングだらけの愉快的留学はスタートしました。

到着翌日、英語の通じなさに驚きを覚えつつ、どうにか中国語で入学・入寮手続きを終えるも、肝心の食堂のカードとインターネットの登録ができなかったため、事務室探しを兼ねて学校探検をする羽目に。私の派遣先大学である北京外国語大学(通称:北外)は、北京市内の大学の中では少人数の学校で、学生数はお茶大より少々多いくらいです。しかし学生のほとんどが寮生活のため、学校の敷地面積は大きく、設備もスポーツジムやプール、スーパー、カフェなど充実しています。日常生活なら学校から出なくとも困らないほどです。探検中に出会った現地学生に事務室を尋ねつつも、正確な答えを得られず、学内をさまようこと三日。同じ寮の日本人留学生に教えてもらい、どうにか食堂カードとインターネットの登録を終えることができました。その留学生曰く、留学生の事務室なんて現地学生はほとんど知らないそう。

語学留学の必修はさほど多くなく、クラスメイトは外国語大学だけあって多国籍でした。1クラス15人前後で日本人韓国人が各クラスに1~2人といったところ。その他は欧米、東南アジア、中東など様々です。日本と違い一限が8:00からなのには驚きましたが、ほとんどの学生が寮生活だからと聞き納得。寮といえば、私の住んだ国交楼は教室棟と隣接していたので、冬は外気に当たらず移動ができました。私のクラスの授業は中国語のみでしたが、初級クラスは英語で補足しつつの授業だったようです。教

師の割合は女性が多く、それにも驚きでした。選択授業は幅広く、法律、商業、旅行、伝統文化、歴史、資格試験対策などもあります。そのほかに夕方から課外授業もあり、音楽(二胡)、書道、中国絵画、太極拳の体験学習ができるようでした。

前期は慣れるのと聞き取るのに必死でしたが、後期は余裕ができてきたので、現地友人と一緒に現地学生向けの授業を聴講、伝統音楽と中国哲学の授業を良く聴きに行きました。他大学から専門の教授を招いている授業もあり、知識的語学力的についていけない部分もありましたが、とても有意義な時間でした。

週末を利用しての観光も留学の楽しみでした。北京市内の頤和園、故宮、景山公園、天壇、南鼓巷、前門大街、天安門広場、国家博物館、盧溝橋、抗日博物館、オリンピックスタジアム、老舎老館など有名どころは一通り行き尽くしました。この留学中、積極的に外に出て、日本で体験できないこと、見られないことを見ることができました。日中関係が不安定である昨今、中国留学に行きたくても安全性を不安に思う方もいるかもしれません。安全性については、首都の北京や上海などは比較的安全とされていますが、時期や場所によってはやはり危険です。しかし、興味を持っているのでしたら、必ず得られるものがあります。ぜひ、一歩踏み出して、中国の土を踏んでいただきたいです。